

第36回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

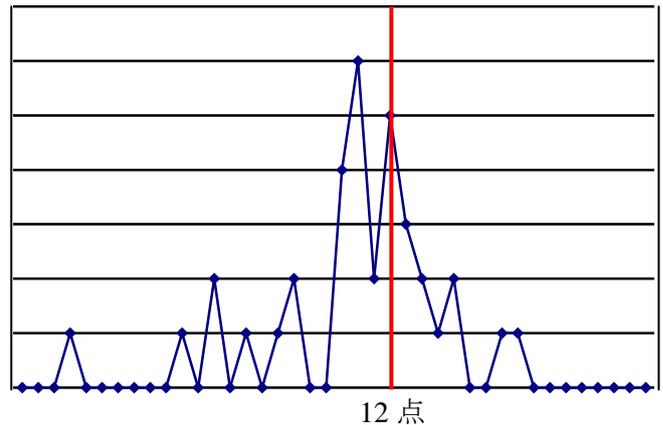
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2019年7月7日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：38名
受検人数：35名
認定者数：16名（認定率45.7%）

2. 認定点

認定点：12点（20点満点）
最高点：16.0点
最低点：2点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 文化的景観
2. 武力紛争の際の文化財の保護に関する条約
3. 真正性

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

世界遺産基金 危機遺産リスト
教育事業計画 報告

3 近年、世界遺産登録後の観光問題が指摘されることも多くなってきた。世界遺産と観光の問題点を挙げ、そうした問題の解決策として考えられることについて、『ヴェネツィアとその潟』と『富岡製糸場と絹産業遺産群』の事例に触れながら、1,200字以内で論じなさい。

4. 総 評

前回に引き続き今回も、3の解答で文字数に達していない受検者は少なかった。これは、オーバーツーリズムというワードと共に、観光の現状が報道されることも多く、受検者にも関心の高いテーマであったことが理由と考えられる。しかし、多くの解答が報道などで触れられる表面的な話に終始しており、そこから一步踏み込んだ考察が少なかったように感じる。そのため高得点が少ない採点結果となった。観光の問題などは、語りやすそうに見える反面、個別に考えなければ深く論じることが難しいため、解答しにくかったと考えられる。こうした世界遺産との関連性が深く、マイスター受検者の関心の高いテーマについては、普段から自分でどのように考えるのかまとめておくことが対策にもつながる。また、前半の2問についても、解答内容に少し不満が残るものであった。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「文化的景観」では文化遺産登録の多様性につながる点や、「真正性」では奈良文書による概念の変化に触れている解答は点数が高くなった。長い解答は、かえって要点がずれているものが多かった。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。今年は、世界遺産条約そのものの説明が十分にできていない解答が多いように感じられた。毎回、同じ内容の出題が続いているため、安易に考えて対策を怠っているのではないかと考えられる。世界遺産条約の周辺のことを書いても、「世界遺産条約について説明しなさい」という問題の解答としては不十分である。例えば、世界遺産基金ひとつとっても、世界遺産基金がどのような基金で用途はどのように決められているのか、記述すべきことは多い。文字数は 400 字と少ないが、密度の濃い解答にしなければ、合格基準に達することは難しい。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようになるのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回の解答で求められたのは、ヴェネツィアと富岡製糸場の事例について、それぞれの事例を概観しながら対比させる視点である。この 2 つの遺産は、世界遺産と観光の話題でよく取り上げられる遺産であり、その観光問題については書けている解答が多かった。その点ではよく情報収集されていたように感じる。しかしそこから、観光問題の原因や課題について踏み込んで論述できている解答が少なかった。今回は難しい問題ではあったが、それぞれの解答者の意見が見えないものは論述問題の解答としては加点が難しい。論述問題では、「正解」が特にないため、自身の意見を論理的に述べるのが重要となる。その辺りで点数が分かれていた。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。